

若槻小学校の歴史

若槻小学校は、平成29年度で128周年を迎えます。

明治22年に、7か村が合併し、若槻村と命名され、本校の前身である「若槻尋常小学校」が誕生しました。そして、昭和22年に、6,3制の義務教育が実施され、若槻小学校となり現在に至っています。

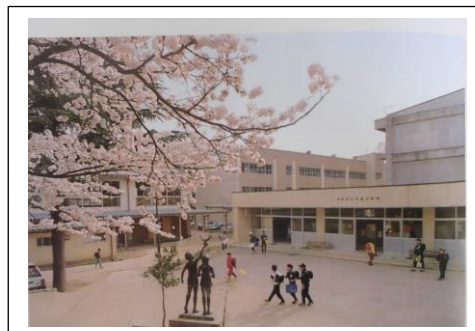


若槻地区の歴史：北国街道が、善光寺から越後へ向かって産地へ入る小高い丘の上に若槻小学校は建っています。17世紀初めの慶長年間に開かれたという北国街道は、近世には北陸諸藩の参勤交代の通路であり、信越往還の重要な歴史的な道でもありました。

学区の変遷：若槻地区は、長野市周辺部で最も団地開発が進んだ地で昭和53年には児童数が1461名となりました。昭和44年に湯谷小学校の檀田地区の児童が湯谷小へと移りました。また昭和56年に徳間小学校から稲田、徳間、東徳間が編入された。現在、若槻住民自治協は、これらの地区も一緒に活動を行っている。それもそのことの名残と思われまます。



校舎の変遷：中校舎が昭和46年に完成、北校舎が昭和47年に一部完成、全面の完成は昭和52年。南校舎も同様に昭和52年に完成しました。南体育館も昭和52年に完成し、校舎改築は全面的に終了したのである。北体育館は昭和40年に建てられ、平成27年に、耐震基準に満たないため51年の幕を下ろし、多目的広場として生まれ変わりました。



元長野市教育委員会教育長の奥村秀雄先生の話

～100周年記念誌より～

「使い古された言葉に、新しい生命を吹き込むのが詩人の使命であると言われます。深く思いやる心の育成を目指す若槻教育は、ずっと以前から受け継がれ、絶えずその時代時代に、新しい息吹を吹き込みながら。初々しく継続されてきた伝統であります。」

平成28年度、新たに迎えた職員を迎え、今この地に生きる若槻の子どもたちのために、新たな気持ちをもって取り組んで参りたいと思います。